

ながをかてんまんぐう
長岡天満宮は開田村かいでんむらの西にあり、当社は天満天神宮てんまてんじんぐうの鎮座にして、神殿の額は靈元帝れいげんていの宸翰なり。社記に曰、菅くわん丞相しやうじやうだざいふ太宰府にうつされ給ふとき、暫く此所に駕をとゞめ給ふなり、菅氏東小路祐房くわんしひがしこうちすけふさといふもの、此地迄随ひ奉りて御余波ををしみけるに、菅丞相くわんしやうじやう相みづから尊容をうつし、祐房すけふさにさづけ給ふ。後に小社を営て長岡天満宮ながをかてんまんぐうと崇奉る。

社頭の道の左右は池塘広くして、風生じては細浪漲り、萍茂りては魚鱗かくる、汀には紅葉多くして、水の面に夕陽を湛へ、秋の暮を踟躕す、風景いちじるし。